

令和5年度 磐田市立磐田北小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
目標をもち、自己・他者・対象と対話し、学びを深める子供	本気で聴いて、つなげて考える子供	授業の内容がよく分かる 目標90%	A	【児童回答92.9%、保護者回答82.3%、教師回答96.1%】 児童の自己評価は目標達成の高い数値が見られた。TTによる授業や学びを深める対話活動を行い、丁寧に指導した結果だと考える。また、タブレットを日常的に扱うようになったためドリル学習として「eライブラリ」を有効に活用することができている。通常の漢字や計算ドリルに加えて実施し、学習内容の定着にもつながったと考える。 教師の回答が高い点については、個に応じたきめ細やかな支援・指導ができたと感じている教員が多いことから、今後も個に応じた支援・指導に配慮しながら、対話的で主体的に学ぶ授業を展開できるよう、授業研究や研修を進め、指導力向上を図る。	ICTを活用した授業の進化に驚いた。教師も児童も、タブレットを使った学習が自然にできている。授業を参観すると、授業内容のレベルも高く教師が授業の工夫をしている様子がよく分かった。また、子どもの言葉に「なるほどね」とよく反応していた。教師が、児童の様子を見ながら個別に対応し、子供に寄り添った教育がされていると感じた。
		友達や先生の話をつかろうとして聞き、自分の考えと比べている 目標90%	A	【児童回答94.7%、保護者回答84.4%、教師回答96.0%】 コミュニケーション・トレーニングを通して、話しを聴くことの大切さや自分の話を聴いてくれる喜びを学んだ児童は、自然と聞いて考えることに慣れていくように感じた。さらに、タブレット端末の活用で、自分の考えを表現したり、友達の考えを知ったりすることで、自分の考えと比べながら話を聞くことができたことと自己評価した子供が多かったと考える。タブレット端末の利用で、話すことが苦手な児童も考えを表現できたり、子供たち同士の共有が容易になったりした。今後も自分の考えを積極的に表現し、より主体的かつ対話的な活動を大切に授業づくりを進めていく。	ICTの活用はいいが、直接人前で声を出して伝えることが大切である。学校では声を出していく活動をしたい。参観授業では、子供同士の対話は生まれているように感じた。児童は対話をし学んでいることで、説得力のある話ができる。 今後も、対話を大切に授業づくりに取り組んでほしい。
い自分も人も大切に心をもち、正しく判断し、よりよい	自分も人も大切に心をもち、正しく判断し、よりよい	周りにあるひと・ものを大切に、自分のよいところにも気付いている。 目標90%	A	【児童回答94.0%、保護者回答83.6%、教師回答96.1%】 子供たちは、学校へ通うこと自体を好意的に捉え、学級での生活も含め友達と楽しく過ごすことができていると考える。朝のあいさつ運動、委員会の企画活動、異学年との交流、地域での校外活動など、人との触れ合う機会も多くなり、児童はひと・ものとの関わり方を通して、日々考えながら成長している姿が見られる。いろいろな経験から失敗することもあるが、できないことを指導するばかりではなく、できることを認め励ますことを意識して指導していくことで自分のよさにももっとたくさん気付いてほしい。また、失敗から立ち直るレジリエンス力の向上に努めていくことが喫緊の課題であり、自己肯定感を高められるように学府でのレジリエンス力強化の取り組みもより一層研修していく。	挨拶ができる児童が非常に多い。学校の取り組みが子供たちに浸透してきたことがうかがえる。地域の方だけではなく、車の運転手に会釈する子もいて、感謝の気持ちも育っている。児童が学校をよりよくしようと取り組む姿がある。人との触れ合いを通して、温かい子供たちが育っていると感じた。
		学級にはお互いにルールを守り、協力する雰囲気がある 目標90%	A	【児童回答90.9%、保護者回答75.7%、教師回答80.7%】 異学年や学年間、地域の交流活動などが活発になり、児童同士のつながる場面も非常に多くなった。そのため、日々の学校生活から相手を思いやる雰囲気づくりやクラスのみんなで解決していくという取り組みが多くなった。コロナ禍よりも人間関係が密接になったため、自分たちでどうすればいいのか考え、主体的に行動しようとする雰囲気も出てきたことで、教師の評価も向上したと考える。今後は、児童の数値向上に対し、そう感じていない児童がいることを意識的に捉え、大切に見守ってしていきたい。また、保護者の評価が低いことから、学級や学校の状況をより多く発信し、トラブル等の解決については保護者と早急に連携を図る必要がある。	1年生をはじめ、どの学年も授業は落ち着いている。挨拶や靴の整頓、掲示物の管理などがよくできており、主体的に活動する子供たちが育っていると感じた。 低学年が使用しているトイレスリッパの整頓は今後きちんと指導してほしい。
		学校に楽しく通っている 目標90%	A	【児童回答91.3%、保護者回答90.4%、教師回答96.1%】 友達と共に過ごすこと、友達と共に学ぶことに大きな価値を見出す児童や保護者が多い。長期休み等があると、子供たちからは、「早く学校へ行きたい」「学校で勉強した方が楽しい」などの声も上がり、コロナ禍とは雰囲気も状況も変化していることに気付いた。ひと・ものとの関わり合う活動を増やしていくことでやりがいを見つけ、自分事として考えることで関わり合う力や楽しむ力が育つと考える。一方で、学校が楽しくないと思っている児童がいることも事実であるため、個に応じた心のケアも充実させていきたい。オンライン授業も可能になった現在であっても、人とのつながりや対話を今後も大切にしていく必要がある。	子供たちは活気があり、生き生きと生活できている。きれいに掲示された掲示物から、自分が認められていると感じる児童も多いのではないかと。児童の挨拶だけではなく、教師の挨拶もいい。トイレがきれいになったことで、子供たちはさらに生活しやすくなったように思う。
るいしな心なや難身かをな挑戦心を合すも	目標に向かっている子供	健康な心と体づくりにおいて、目標に向かって努力している 目標90%	A	【児童回答94.4%、保護者回答76.2%、教師回答96.2%】 運動会の学年団体競技に向けて練習に励んだり、持久走や短縄跳びで目標を決めて記録会に臨んだりする姿が多く、評価数値が高くなっていると考える。 しかし、明確に目標を設定して粘り強く努力する程度については児童によって個人差が見られるため、目標に向かって前向きに取り組めるよう体育カードを活用したり賞褒の方法を工夫したりしていく必要はある。また、保護者評価も児童や教師に比べ低いことから、情報を積極的に公開していくことや児童が保護者に伝えたいこと、見せたいことをより具体的に実践していくことが求められる。投てき板はできたが、さらに体力向上に向けて遊びたい道具や誰でも使える道具を用意して授業や休み時間に活用していくようにする。	いきいきと運動会、持久走記録会、短縄大会に参加していた。まとまりがあり元気よく活動していたよかった。あいさつや地域住民への声掛けなどが非常にできており、とてもうれしく思う。教室の換気などにも気を配っていたよかった。保護者への発信も、PTAと協力してやってほしい。

学校関係者評価を受けてのまとめ

挨拶や地域委行事への参加など、地域の方々との触れ合いを通して、磐田北小の子供たちの良さはよく伝わっていることが分かった。今後も、対話を軸にどのように子供たちを育てていくかについて、教師も研修を通して研鑽していく必要がある。地域の一人として活躍できるように、子供一人一人に目を向け、自己肯定感を高められるような励ましの声を掛けていきたい。目標達成に向けての手立てを具体的に考えていくこと、さらに、教師の働き方改革についても、メンタルヘルスチェックの定期的な実施をしながら、実行可能な業務改善を続けていく。家庭・地域・学校で連携して子どもたちを見守り育てていくためにも、従来の方法だけでなく、新しいことにチャレンジしたり工夫したりしていきたい。保護者の学校評価が低い点については、学校が保護者や地域に積極的に情報発信することが今後必要になると考える。PTAとも連携しながら学校に関心をもってもらうための方策を検討していきたい。